

セキュリティ(防犯・防災・安心)関連市場の実態調査を実施

‘05年のセキュリティ機器・システム・サービス市場は4,700億円超(‘02年実績比8.8%プラス)と予測

ネットワーク(Web)カメラ/携帯電話などを活用したシステム化が一般家庭向けセキュリティの将来像

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 原 務社長 03-3664-5811)は2003年10-12月にかけてセキュリティ市場を調査し、その内容を報告書「2004セキュリティ関連市場の将来展望」にまとめた。

近年、凶悪犯罪の増加とともに国内における防犯意識が強くなってきた。それに対応するさらに高度なセキュリティ機器・システムそしてサービスが求められ、国内の防犯ビジネス市場の規模が拡大している。

今回の調査は

- (1)2000年以降の時系列調査データを更新し、さらに広い視点を加えてセキュリティ市場全体を俯瞰した。
- (2)一般家庭向けセキュリティを今後の注目市場として、その動向を継続して調査するとともに量販店/DIY(ホームセンター)などの流通ルートにも注目。
- (3)更に高度化するセキュリティ機器/システムにおけるネットワーク化の動向に注目し、システムインテグレータ/ネットワークインテグレータの注力度合いについて検証を加えた。

<調査のまとめ>

セキュリティ関連市場全体は2005年には、4,721億円(2002年実績比8.8%プラス)の規模に拡大と予測する。その全体市場を機器/システムのハード市場と、サービスのソフト市場に分けて見ると

(1)機器/システム市場は2005年には、4,248億円で、対2002年実績比6.3%プラス。

この市場は無停電電源、中央監視盤など設備ビジネスが50%以上を占めているが、成長性では、一般家庭向け、映像系、センサ系セキュリティ、それにセキュリティサービス市場が注目される。その中でも一般家庭向けセキュリティ市場の成長が著しい。高齢者、幼児、児童、女性などの弱者を標的とした犯罪が多発していることやピッキング被害、自動車盗難などの激増により、一般の市民生活において安全に対する意識が変わりつつある。

一般家庭向けセキュリティ市場は2005年には、529億円で、対2002年実績比27%プラス。

今後セキュリティ市場の中心的な存在となる可能性があり、最も期待がかかる分野である。ただ、単価が安く、下落傾向がうかがえる。また、より高性能な製品が求められており、参入メーカーはいっそう厳しい努力が必要である。

センサ系セキュリティ市場は2005年には、684億円で、対2002年実績比14.3%プラス。

スタンダードな製品が多いが、センシング技術が活かされ、技術進歩も目覚ましい。RF-ID(無線IDシステム)、リモート監視、生体認証などの先端技術とも関連が深く、社会インフラとして認知されれば、市場は飛躍的に成長する可能性を持つ。

映像系セキュリティ市場は2005年には、953億円で、対2002年実績比7.5%プラス。

監視カメラ、DVR(デジタルビデオレコーダー)などの映像系機器は、セキュリティ市場において中核的な存在となっている。Webカメラなどは、従来のセキュリティ用途としてだけでなく、さまざまなシーンにおいて利用されている。今後も安定した成長が見込まれるであろう。

(2)セキュリティサービス市場は474億円で、対2002年実績比38%プラスと大幅に伸びると予測。

一般家庭向けのセキュリティサービス市場は欧米に比べまだ低いが、非常に高い潜在需要があり、今後有望である。特に高齢化社会の到来により、そのニーズはいよいよ高まると見られる。IT技術を駆使したシステムなども見られるが、いかにユーザーニーズにマッチするかがポイントであろう。警備会社によるサービスが現在中心となっているが、ガス会社/電力会社などインフラ系企業を筆頭とするさまざまな業種からの参入も今後は予測され、益々競合が激化するものと見られる。

* セキュリティ関連市場は一般家庭、企業、官公庁などのセキュリティを管理する機器・システム・サービスを対象にしており、コンピュータネットワーク上のセキュリティは除外している。

<注目される個別成長市場>

一般家庭向けセキュリティサービス/ユニット

サービス:2005年予測 400億円 対2002年実績比37%プラス

ユニット:2005年予測 22億円 対2002年実績比165%プラス

一般家庭向けのセキュリティサービス市場は、警備会社が提供しているサービスが中心であったが、導入者が自己管理を行う自主警備系のホームセキュリティシステムの認知度も高まりつつある。

同市場は、従来比較的規模の小さな代理店が海外製品を取り扱う市場であったが、防犯を主目的とした専用機に代わり、最近ではホームサーバ的な製品が大手企業から上市されたことによって、ホームネットワークの一つとしての位置付けられつつある。

更にはネットワーク(Web)カメラ/携帯電話など身近なツールを使っのシステム化も進んでおり、一般家庭向けセキュリティの将来像といえるだろう。

ネットワーク(Web)カメラ(2005年予測28億円 対2002年実績比41%プラス)

現在 Web カメラ市場は立ち上がったばかり。ネットワーク利用への不安、コスト高などの課題が解消され、2000年初頭を本格化の開始時期として、防犯にとらわれない利用がなされている。将来的には堅調な拡大を続けると見込まれるが、セキュリティ用途での採用が本格化すれば、更に大きな市場拡大が期待出来る。

バイオメトリクス(生体認識)装置(2005年予測126億円 対2002年実績比52%プラス)

バイオメトリクス認証技術は発展途上ではあるが、その認証の進化は目覚ましい。方式は指紋認識を中心として静脈、顔、虹彩、音声などがある。開発の課題は認証精度の向上とコスト、操作性、利用者の心理的抵抗感の解決である。最近では指紋認識タイプの携帯電話も発売されるなどアミューズメント、電子商取引など防犯用途を離れた展開が見られる。今後更にモバイル機器との連携が進むことが予測され、本格化すれば飛躍的な伸張が期待出来る。

自動車盗難防止装置(2005年予測54億円 対2002年実績比71%プラス)

自動車の盗難は平成15年に入り被害数が再び増加している。手口が高度化するとともに、対象が高級車中心から最近では普及車クラスにまで及び始めた。これに伴いユーザーの自動車に対するセキュリティ意識も変化しつつあり、今後も伸びる市場として非常に注目される。

欧米ではイモビライザーを新車に標準装備する動きが進んでいるが国内でも同様の傾向が見られる。この防止装置はコストの問題もありユーザーの意識次第で普及が決まる。当初アラームタイプがほとんどであったが、最近ではPHS・携帯電話と連動して異常を即座に通報あるいは追跡する高機能タイプが出てきている。

調査の概要

調査方法 (株)富士経済専門調査員による関連企業およびデベロッパー、関連団体などへのヒアリング調査を主体に、公的データを使用して整理・分析を行なった。

調査期間 2003年10月～12月

調査対象品目 全22品目、3サービス

1.機器/システム市場

A.設備セキュリティ

- 中央監視盤
- 火災用受信機
- 無停電電源装置
- 自動通報装置
- 入退室管理システム

B.センサセキュリティ

- 侵入センサ
- ガス漏れ警報器
- 火災用感知器
- 自動車盗難防止装置
- 万引き防止装置
- バイオメトリクス装置

C.一般家庭向けセキュリティ

- ピッキング対策錠
- 家庭用住宅情報盤
一般家庭向けセキュリティユニット
- テレビドアホン
- 家庭用監視ロボット

D.映像セキュリティ

- 映像監視システム
 - ・ 監視カメラ
 - ・ デジタルビデオレコーダ
 - ・ ネットワーク (Web)カメラ/サーバ
 - ・ 画像伝送装置
 - ・ その他
- X線透視装置

2.サービス/プロバイダー市場

セキュリティサービス

- 位置検索サービス
- 緊急通報サービス
- 一般家庭向けセキュリティサービス

以上

資料タイトル : 「2004セキュリティ関連市場の将来展望」

体 裁 : A4判 (196頁)

価 格 : 101,850 円 (本体価格 97,000 円、消費税 4,850 円)

調査編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部第1事業部セキュリティプロジェクト
TEL 06-6228-2020 FAX 06-6228-2030

発行所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F K ビル

TEL 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165

e-mail: koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>

*****本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。*****

(株)富士経済グループ 広報部 TEL 03-5614-1078